



平成 29 年 3 月 29 日放送

救急病院でのソーシャルワーク業務について

総合病院 土浦協同病院

福祉相談部 ソーシャルワーカー 山口 渉

司会者：土浦協同病院では、数多くの救急患者さんの受入れをしているとお聞きしておりますが、そのような患者さんに対して、どのようなところに気をつけて支援をされていますか？

山 口：はい、まずは治療開始となる入院早期より介入することに努めております。そこで、突然起きたことに対する感情をお聞きし、整理するお手伝いをする事で、今置かれている状況に少しでも向き合えるように支援しております。患者さんやご家族が、当院での治療を安心して受けられる状況にあるのかを確認し、安心した入院生活に繋げていけるよう心掛けております。

司会者：様々な病気や怪我で入院されると思いますが、緊急で入院される患者さんに対しソーシャルワーカーはどのような対応をされる事が多いのですか？

山 口：我々が介入する方は、社会背景や経済面など、入院される前から不安を抱えている方が多いのが現状です。また、事故などで予期せぬ入院となり、治療が必要となった方や、病状が悪化してしまってから受診される方など、危機的な状況に対して支援する事も多くあります。このような入院では、患者さんご本人だけではなく、ご家族にとっても予期せぬ状況で、患者さんだけではなくご家族へも目を向ける事が大切だと感じております。

司会者：予期せぬ入院は、患者さんだけではなく、入院生活に関わるご家族にとっても不安に思われる事がたくさんありますよね。

山 口：はい、患者さんはコミュニケーションが困難な状況の方が多く、意識がない方もいらっしゃいます。それを見守るご家族の心労はとても大きなものですし、現状を受入れるにはとても時間がかかります。医師や看護師とともに患者さんへの治療のみならず、ご家族へのケアにもチームで努めていけるように心掛けています。ご家族の想いをお聞きし、その想いを共感する事で、患者さんと共に治療に臨むご家族のサポートになればと思っております。

司会者：ご家族へのケアもチームで行って頂けるのですね。急な入院となっても、ご家族も安心ですね。

山 口：そう思っただけで幸いです。

司会者：では、実際の場面では、どのような支援をされていますか？

山 口：たとえば、交通事故で入院された方に対する支援ですが、その事故に遭うまでは何不自由なく過ごされていた方が、不慮の事故で突如病院での治療を余儀なくされます。ご家族は、患者さんの容態に対する不安だけではなく、事故に対する思いも抱かれており、とても複雑な心境でおられます。治療は長時間に及び、その治療を終えるまでの時間に、ご家族と直接面接をおこなう事があります。面接の内容としては、まずは入院治療が必要となった経緯や、ご家族状況、これまでの患者さんの生活の様子を確認させていただいております。今まで元気でこんな事故さえなければという、ご家族のやり場のない思いを傾聴することから面接を始めております。それを聞き取ることで、患者さんに対するご家族の思いや、患者さんがご家族にとってどのような存在だったのか、そしてどのように生活を共にされていたのかを知るきっかけとなり、私たちも、患者さんだけではなくこのご家族に対しても何か出来る事はないかという想いがこみ上げてきます。このような想いを共感し共有することで、ご家族との信頼関係の構築にも繋がっているのではないかと感じております。

司会者：ご家族としても安心して治療に臨めますね。では、ご家族が来院できないときや一人暮らしの方の場合は、どのように支援されておりますか？

山 口：はい、身寄りのいらっしゃらない患者さんや入院生活のサポートを得られない状況で入院される方も増えており、危機介入は、そのような患者さんを対象とする事が多いです。そのような患者さんが入院された際には、医師や看護師よりソーシャルワーカーへ連絡が入り、ご家族を含め患者さんとの関わりがある方を探す支援から始めております。患者さんが、意思疎通が可能な病状であれば、直接お話を伺う事ができますが、意思疎通が困難な患者さんの場合には、病院だけでは支援を進めていく事に困難が生じてしまう事があります。その際には、公的機関へ連絡し連携を図りながら支援を進めていく事に努めております。患者さんにとっても、不安のある入院生活の中で、関わりのある方の存在はとても大きなものです。そのような方を探す上では、日頃より地域との顔の見える関係を構築しておく事が大切な支援の一つだと考えております。

司会者：入院生活は不安が多いですし、入院してしまうと、患者さん自身は身動きが取れなくなってしまう事が多いですね。とてもよくわかりました。入院した際

に不安を感じる事のひとつに、費用の事があると思いますが、この様な相談は多くありませんか？

山 口：はい、医療費に関する相談も多くあります。入院し治療を受けるためにはどうしてもお金が必要になります。緊急で手術を施行し、集中治療室に入院となると高額な医療費が生じてしまうと思われ、治療を受けさせたいが、受けさせてあげられないかもしれないと、本音でお話し下さるご家族もいらっしゃいます。でも、保険証をお持ちの方であれば、高額医療に対する社会制度を利用する事が可能です。国民健康保険であればお住まいの市町村役場、社会保険であれば職場や社会保険事務所が窓口となって、限度額適応認定証の手続きを行う事ができます。所得に応じて異なりますが、毎月の医療費の上限額が設定され、窓口でのお支払額を抑える事ができます。患者さん、ご家族が利用可能な社会制度をご案内する事は、安心して医療を提供する事と同様に、大切な支援だと感じております。

司会者：では、最後にこの放送をお聞きの皆様にお伝えしたい事はありますか？

山 口：転ばぬ先の杖ではありませんが、日頃より緊急時の連絡先や、現在治療されている病気についてなど、ご家族や心の許せる方と話し合っておく事が重要だと思います。いくら予防に心掛けていたとしても、病気や不慮の怪我は、いつどこで起きるか分かりません。それは自分自身だけではなく、ご家族にも起こりうる事です。緊急時の準備の一つとして、日頃より支え合える環境作りをしておく事はとても大切な事なのではないかと思えます。また、治療が必要となり不安を感じる事がございましたら、皆様だけで悩まねず、私たちソーシャルワーカーや病院の職員にお気軽にご相談ください。今後も地域の皆様に安心した医療を提供していく事に努めてまいります。